

大学における敬語のニーズ†

—日本人学生と留学生のレディネス分析からの考察—

早野 香代*

三重大学人文学部*

三重大学人文学部の「日本語コミュニケーションA」(履修学生118名)というコースでは、コース終了時に、日本語の表現に関するテーマを選びレポートを書く。2016年前期、そのレポートのテーマで、最も多かったのは「敬語」であった。その中でも「ビジネス敬語」のテーマが20名と多く、次いで「二重敬語」が6名であった。本コースは、日本人学生と留学生の協働の授業であるが、双方共に、社会で通用する敬語を学び、その使い方を習得したいと言う。しかし、適切に使われていない敬語も社会に氾濫し、困惑しているのも事実である。そのような情勢下、大学のコースで学ぶ「敬語」のニーズとは何か、学生の敬語におけるレディネスの調査・分析から、構造面のみならず、運用面にも焦点を置いた敬語の学習であることが分かった。「ポライトネスの理論」や敬語を使用する背景的場面・心理を理解した上で、実践の練習を積むことが、今後の授業の課題である。

キーワード：敬語，日本語教育，国語教育，レディネス，ニーズ

1. はじめに

2016年前期、筆者は三重大学人文学部で「日本語コミュニケーションA」(履修学生118名)という自由選択科目を担当したが、そのコース終了時に、コース内で扱った日本語に関するテーマの中から最も興味・関心のあるものを選び、レポートを書くという課題を設けた。そのレポートのテーマで最も多く選ばれたのが、「敬語」であった。そして、それらのレポートやコース内のチェックテストから、これから社会に出て行こうとする学生たちが、「敬語」に関する知識とその使用法について予想以上に理解しておらず、自信をもって使える状態ではなかったという事実が判明した。

これは、家庭や教育現場で、以前より敬語が使用されなくなってきたことも背景にあると考えられる。対人関係における言語使用は時代の流れによって変化しうるものではあるが、社会で誤った敬語表現が氾濫し、その使い方に混乱しているのも事実である。また、日常生活、あるいは学生生活の中で、敬語に限らず、特定の仲間以外の対人コミュニケーションそのものが減少していることも危惧される。しかしながら、これから社会に出て活躍しようという学生

たちが、その社会で必要とされるコミュニケーション能力を持ち合わせていないとするならば、そこは教育機関の言語や言語教育の分野で補うべき項目となるであろう。それが、学生ら自身のニーズであると同時に、社会のニーズであると考えられる。そこで、筆者は、コース内で判明した「敬語」に関する学生のニーズを報告すると共に、そこで必要とされる敬語というものはどのようなものかをこれまでの学生の敬語学習におけるレディネス¹⁾、つまり敬語に関する既習の日本語能力から分析・考察し、今後の学習内容の対象となるものを検討する。

2. 敬語のニーズ

筆者が大学で担当する「日本語コミュニケーションA」という科目は、日本語表現とその背景にある文化を留学生と日本人学生が協働で学ぶ。留学生は、学部の正規留学生、特別聴講生(交換留学生)、国際交流センターの聴講生の22名で、日本語のレベルも出身国も異なる。日本人学生の履修者は、文化学科と法律経済学科2~4年次の学生96名で、計118名であった。学習の目的は、日本語表現を身につけ、日本語運用能力を高めるとともに、日本の社会・文

化における知識を広げ、異文化間の相互理解を深めることにある。コースでは、日本語表現として、発音、語彙、表記、文法、敬語、日本人の表現、その他と7つの日本語テーマに関して学び、最後に、興味・関心のあるテーマについてレポートを書くことを課題とした。その日本語テーマやレポートのテーマの詳細は、表1の通りである。

表1 日本語テーマごとのレポートのテーマと人数

日本語テーマ (人数)	レポートのテーマ (人数)
発音 (14名)	東京式 (尾張/中輪) のアクセント (7名)
	関西のアクセント (5名)
	日本語の東西アクセント (2名)
語彙 (13名)	自然に関する語彙 (5名)
	24節気 (3名)
	言葉に含まれる色 (2名)
	日本の色名称 (2名)
表記 (17名)	日本の色名称 (2名)
	日本色の表記の変遷 (1名)
	文字の伝来 (5名)
	現代仮名遣い (5名)
文法 (10名)	平仮名・片仮名の使い分け (4名)
	熟字訓 (3名)
	男性と女性の区別 (6名)
敬語 (33名)	助数詞 (2名)
	語順 (2名)
	ビジネス敬語 (20名)
日本語の表現 (20名)	二重敬語 (6名)
	日韓の比較 (7名)
	否定疑問文について (6名)
	日本語独特の表現 (5名)
その他 (11名)	感謝・陳謝の表現 (5名)
	日本語の多様性 (4名)
その他 (11名)	同形語 (6名)
	外国語教育 (5名)

テーマごとに見ると、発音14名(12%)、語彙13名(11%)、表記17名(14%)、文法10名(8%)、敬語33名(28%)、日本語の表現20名(17%)、その他11名(9%)と分かれ、敬語が最も多かった。

さらに、敬語を選んだ33名のレポートのテーマを見ると、「ビジネス敬語」が20名(61%)、「二重敬

語²⁾」が6名(18%)と、社会で使われる敬語を扱っているものばかりであった。社会で使われる敬語のテーマを選んだ学生は、敬語を選んだ33名中26名(79%)もいた(表1の太字箇所)。

なぜ、社会で使われる敬語にこれほど関心が高かったのか。コース終了時の学生の振り返りから、次のようなコメントが多く見られた。

<日本人学生>

- ・自分が普段何気なく使っている敬語が、間違っていたことに驚いた。社会に出る前にもっと学びたい。
- ・日本人だからできて当たり前と思って取り組んでも、実際は(敬語の適切な使い方が)できないことが多かった。
- ・留学生の敬語の表現は、日本人よりも硬い気がしたが、留学生の方が正しく使えていることもあって、日本人の自分はずっと勉強しなければと思った。

<留学生>

- ・日本人にとっても、敬語は難しいと言うことがわかった。
- ・韓国の絶対敬語とは違って、日本の敬語は相対的に変化することが難しい。韓国では、小さい頃から祖父母に対しても敬語を使い、その使い方も生活の中で教えられる。
- ・外国人にとって、日本語の勉強の中で敬語はかなり複雑な問題としてよく取り上げられる。授業で、二重敬語と敬語連結について学習でき、習得できたのはよかった。

筆者は、授業で、文化庁の「敬語の指針(答申)」(文化審議会2007)や「敬語おもしろ相談室 新社会人のための敬語の使い方指南」を紹介し、敬語に関する基本的な知識やその使い方について触れたのだが、「敬語の指針」の中で不適切だという使い方を提示しても、違和感がないと言う学生が多くいた。学生が敬語と接する場面を想定すると、大学の他に、アルバイト先などが挙げられるが、そこでの「マニュアル敬語³⁾」の不適切な部分を一般化してしまっていることが原因と推測される。規範的な敬語にあまり接していない学生が、アルバイト先で「マニュアル敬語」を教えられれば、その中に不適切な表現が混じっていても、正しい敬語と認識して使ってしまうであろう。このように、学生が正しく敬語を使用できない理由の一つに、誤用が社会に氾濫しているという環境が挙げられる。

また、日本人学生と留学生の対話の中から、日本人学生の「敬語は、小学校で習って以来、ちゃんと勉強していない気がする。」というコメントが見られた。実際、国内の教育現場では、敬語に関して、どのような教育がなされてきたのであろうか。日本人学生にとっては、小学校からの国語教育で、留学生にとっては、初級からの日本語教育で、敬語がどのように導入され、指導されてきたのかを調べる必要がある。韓国人留学生のコメントにあるような、家庭で祖父母から敬語を教わるという光景があまり見られなくなった現代の日本では、地域社会での自然習得に依存することも多い。しかしながら、誤用が氾濫する社会からのインプットだけでは、困惑を招きかねない。そういう状況下であるからこそ、教育現場での学習が重要になると考えられる。

大学生の敬語に関する先行研究に、鈴木(2008)、向山(2012)がある。鈴木(2008)は、大学生には実際の場面での運用力が不足しているため、敬語の体系を指導する必要があるとし、向山(2012)は、その敬語指導において、実践経験が文法知識の理解を促進するため、実践経験を文法知識の学習と結び付けて行う敬語指導が有効であると述べている。

また、留学生の敬語に関する研究においては、村松・石川・鈴木(2012)の工学系留学生のための「ビジネス日本語」の研究で、工学系留学生の敬語を使い分ける運用能力の不足や日本人学生と留学生の知識差に考慮が必要との報告をしている。確かに、日本人学生と留学生の知識差はある。本コースでは、その差を協働学習という学習方法によって埋めるべく、助け合いを呼びかけることで対処した。

このように、日本人学生、留学生、それぞれの研究はあるものの、双方から見た敬語のニーズやレディネスを調べた研究は、未だあまり見られない。よって、本稿では、国語教育と日本語教育の双方から、敬語がどのように扱われているか、またその中で習得された日本人学生と留学生の敬語に関する既習能力、つまりレディネスがどのようなものかを調査することにした。

3. 敬語についての考え方

分析に先立ち、本稿での「敬語」についての考え方を明確にしておきたい。本稿では、文化庁の「敬語の指針(答申)」(文化審議会 2007, pp.5 - 12)による「敬語についての考え方」に従うことにする。以下がその概要である。

表2 敬語の種類と働き「敬語の指針」(2007) p. 13

5種類		3種類
尊敬語	「いらっしゃる・おっしゃる」型 相手側又は第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるもの。	尊敬語
謙讓語 I	「伺う・申し上げる」型 自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの。	謙讓語
謙讓語 II (丁重語)	「参る・申す」型 自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁重に述べるもの。	
丁寧語	「です・ます」型 話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。	丁寧語
美化語	「お酒・お料理」型 ものごとを、美化して述べるもの。	

<基本的な認識>

- ① 敬語は、相手や周囲の人との人間関係・社会関係について、また、その場の状況についての気持ちを表現する役割を担う。
- ② 敬語は、人と人の相互尊重の気持ちを基盤とすべきものである。
- ③ 敬語の使用は、自らの気持ちに即して主体的に言葉遣いを選ぶ「自己表現」であるべきで、明らかな誤用や過不足は避けるよう心掛ける。

<敬語の仕組み>

敬語の種類と働きについては、表2. 敬語の種類と働き「敬語の指針」(2007)の通りである。従来、敬語は、「尊敬語」「謙讓語」「丁寧語」の3種類に分けて説明されることが多かったが、ここでは5種類⁴⁾に分類されている。現在の敬語の使い方をより深く理解するために、従来の「謙讓語」を「謙讓語 I」と「謙讓語 II」に、また「丁寧語」を「丁寧語」と「美化語」に分けている。

4. 国語教育における敬語

まず、日本人学生の敬語のレディネスを調査するべく、国内の小学校・中学校・高等学校の学習指導要領を概観し、敬語に関する記述を抜き出し、教科書にどのように掲載されているかを見ていきたい。

4.1 小学校における敬語

「小学校学習指導要領（H20.3）」における敬語や敬語表現に関する記述は表3の通りである。（本稿の分析対象である「敬語」は太字で表記。以降、表5、表7も同様。）小学校では、低学年で敬体の文章に慣れ、中学年で適切な言葉遣いで話すことを学び、高学年の5年生で初めて「敬語」が導入され、敬語の使用に慣れることを目標としている。

表3 「小学校学習指導要領(H20.3)」における敬語

学年	2. 内容 A 話す・聞くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
1 ・ 2		・敬体で書かれた文章に慣れること。 (p.9)
3 ・ 4	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 (p.10)	
5 ・ 6	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 (p.13)	・話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ・日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。(p.15)

次に、教科書ではどのように扱われているのだろうか。光村図書『国語五 銀河』(2016, pp.68-69)では、表4のように、敬語を尊敬語・謙譲語・丁寧語の3分類で紹介している。謙譲語はⅠ・Ⅱの分類はなく、導入された語は、すべて文化庁の分類の謙譲語Ⅰに該当する。また、美化語は紹介せず、動詞に限定している。語彙も日常よく使われる敬語に限定されているため、小学校では、まず基本的な敬語に慣れることが第一とされている。

表4 光村図書『国語五 銀河』(2016, pp.68-69)

丁寧語	あまり親しくない人や大勢の人に対して話したり書いたりするとき使う。相手(聞き手や読み手)に対する敬意を表する。 ・です ・ます ・ございます
尊敬語	相手や話題になっている人をうやまう気持ちを表すとき使う。尊敬語には次の種類がある。 1. 特別な言葉 ・いらっしゃる ・おっしゃる ・くださる 2. 「お(ご)ーになる」 ・校長先生が <u>お話</u> になります。 3. 「ーれる(られる)」 ・先生は、もう <u>帰</u> られました。 4. 「お」や「ご」 ・ <u>ご卒業</u> おめでとうございます。
謙譲語	自分や身内の者の動作をけんそんして言うことで、その動作を受ける人への敬意を表すとき使う。けんじょう語には次の種類がある。 1. 特別な言葉 ・うかがう ・いただく 2. 「お(ご)ーする」 ・お客様を、 <u>お見送</u> りしましょう。

4.2 中学校における敬語

「中学校学習指導要領（H20.3）」における敬語や敬語表現に関する記述は表5の通りである。中学校では、小学校の気付く、慣れるというレベルから、今度はその働きを理解して身に付けるという実用的なレベルに発展している。そして、目標の項目に「目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力」や「相手の立場を尊重して話し合う能力」を身につけること記している(p10)。このような姿勢や態度は、敬語を直接用いることはなくとも、待遇表現⁵⁾上、非常に重要な要素である。

では、教科書では、どのように扱われているだろうか。東京書籍の『新編新しい国語2』(2016, p257)では、尊敬語・謙譲語・丁寧語の3種類を提示した後、謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ(丁重語)、丁寧語・美化語も紹介している。他、三省堂の『現代の国語2』

表 5 「中学校学習指導要領 (H20.3)」における敬語

学年	2. 内容 A 話す・聞くこと	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項
1	・話す速度や音量, 言葉の調子や間の取り方, 相手にわかりやすい語句の選択, 相手や場に応じた言葉遣いなどについて の知識を生かして話すこと. (p.6)	
2	・相手の立場や考えを尊重し, 目的に沿って話し合い, 互いの発言を検討して自分の考えを広げること. (p.9)	・話し言葉と書き言葉との違い, 共通語と方言の果たす役割, 敬語 の働きなどについて理解すること. (p.11)
3	・場の状況や相手の様子に応じて話すとともに, 敬語 を適切に使うこと. (p.12)	・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに, 敬語 を社会生活の中で適切に使うこと.(pp.13-14)

表 6 東京書籍の『新編新しい国語 2』(2016, p257)

丁寧語	助動詞「です」「ます」「ございます」
尊敬語	ア 特別な動詞を使う ・いらっしゃる・おいでになる ・おっしゃる ・ご覧になる ・召し上がる ・あがる ・くださる ・なさる ・あそばす イ 接頭語表現を使う ・お読みになる・ご着席になる ウ 助動詞を使う ・読まれる・来られる
謙譲語	ア 特別な動詞を使う ・参る・伺う・おる・申す・申し上げる・拝見する・承る・頂く・頂戴する・さしあげる・いたす イ 接頭語表現を使う ・お読みする・ご案内する

(pp.157-159) では丁重語抜きで 4 分類, 『現代の国語 3』(p.141) では丁重語を含む 5 分類, 教育出版の『伝え合う中学国語 2』(pp.239-241) では 4 種類に丁重語の補足説明を加えている。

語彙や説明の仕方を見ると, 東京書籍の『新編新しい国語 2』(2016, p257) では, ア〜ウのように, 品詞に関する用語を用いて表現していた。また, 敬語を使う対象と程度に触れ, 敬意の度合いについてもア→イ→ウの順に弱くなるとし, 「くださる」などの補助動詞としての用法 (先生が教えてください) やイの形に「なさる」「いたす」を用いることにも言及している。

4.3 高等学校における敬語

「高等学校学習指導要領 (平成 20 年 3 月)」においては, 表 7 の通りである。高等学校では, [国語総合] で「敬語の用法などについて, 必要に応じて扱うこと」としか記述はない。しかしながら, 「目的や場に応じて」や「相手の立場や考えを尊重し」と, 待遇表現上, 重要と思われる姿勢や態度に関しては言及がなされている。そして, それらを単に理解して用いる中学校のレベルから, 工夫し, 効果的に用いるというさらに熟達したレベルを目指していることが読み取れる。

表 7 「高校学習指導要領 (H20.3)」における敬語

科目	2. 内容 A 話す・聞くこと	内容の 取扱い
国語総合	・目的や場に応じて, 効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。 ・課題を解決したり考えを深めたりするために, 相手の立場や考えを尊重し, 表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	・口語のきまり, 言葉遣い, 敬語 の用法などについて, 必要に応じて扱うこと. (pp.11-12)
国語表現	・目的や場に応じて, 言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりすること. (p.13)	
現代文 B	・語句の意味, 用法を的確に理解し, 語彙を豊かにするとともに, 文体や修辞などの表現上の特色をとらえ, 自分の表現や推敲に役立てること. (p.15)	

教科書はというと、平成 28 年度版の東京書籍の『新編国語総合』『国語総合現代文編』『精進国語総合』や三省堂の『明解国語総合』『国語総合現代文編』『精選国語総合(改訂版)』などを概観したが、[国語総合]では、どの教科書も古文を読み解くための「古文の敬語」を扱っていた。唯一中学校で学んだ現代文の敬語の延長と見られるものは、東京書籍の『新編国語総合』pp.197 - 198 に掲載されていた「敬語を使う時に」であったが、「この言い方、正しい？」という見出しで敬語の誤用を解説するものだった。敬語における体系的な説明はなく、より実践的な使用の中での注意が掲載されているに過ぎなかった。話す技能という側面から教科書を見ると、スピーチやディベートなどが扱われ、公的な場面で話す敬語がその中に含まれると考えられる。また、書く技能という側面からは、手紙の書き方やはがきの返信などで書き言葉の敬語も扱われていた。よって、高等学校では、理解から使用へとより実践的なレベルにステップアップしており、スピーチやディベートをすること、手紙やはがきを書くことなど特定の技能の習得が目標とされている。そのため、それらの技能に付随して学ばれる敬語には、学習者自身からはあまり意識が向けられていないものと推察される。

5. 日本語教育における敬語

日本語教育においては、学習者によって教材も様々で学習した内容も異なるが、ビジネス日本語などを学ぶ学習者以外は、一般的には初級の後半から「敬語」を学習すると考えられる。今回は国内外で多く利用されているスリーエーネットワークの『みんなの日本語初級 I・II 本冊』を参考にしてみたい。このテキストは I・II 2 冊で第 1～50 課あるが、敬語は II の第 49 課で尊敬語が、第 50 課で謙譲語・丁寧語が導入されている。そこで導入される語彙は、表 8 の通りである。

前章 4.2 の表 6 の国語教育の中 2 で導入される尊敬語と比較してみると、尊敬語においては、「おいでになる・あがる・あそばす」はない。しかし、日常会話における使用頻度を考えると問題はないと思われる。一方、『みんなの日本語 II』のほうでは、表 6 にはない「ごぞんじです」が加えられている。また、尊敬語「お～になります」と共に、依頼の表現「～てください」の尊敬表現として「お～ください」も導入されている。

ここで「～てください」について言及したい。「ください」は尊敬語「くださる」の命令形で、動詞の

表 8 『みんなの日本語初級 I・II 本冊』の敬語

第 49 課	第 50 課
<尊敬語> 1. 特別な尊敬語 ・いらっしゃいます ・めしあがります ・おっしゃいます ・ごぞんじです ・ごらんになります ・なさいます ・くださいます 2. 尊敬動詞 お～になります 3. 尊敬動詞 ～(ら)れます	<謙譲語> 1. 特別な謙譲語 ・まいります ・おります ・いただきます ・はいけんします ・もうします ・いたします ・うかがいます ・ぞんじております (ぞんじません) ・おめにかかります 2. お/ご～します <丁寧語> ・～です ・～ます ・ございます

て形(連用形)と接続して、依頼・指示・勧める表現として用いられるが、これも敬語表現の一つとして捉えられる。『みんなの日本語初級 I・II 本冊』では尊敬語や謙譲語が導入される第 49 課よりかなり前の第 14 課で導入されている。これは、初級の学習者も使える丁寧な依頼表現としてフレーズで学習されているのが実情だ。さらに、表 9 に見られるように、より丁寧な依頼表現として、「～ていただけませんか」、「～てくださいませんか」、「～(さ)せていただけませんか」が敬語導入前に紹介されている。初級であれ、依頼表現において、複数の表現を学んでいることは注目に値する。なお、「くださる」「いただく」においては第 41 課で導入され、補助動詞「～てください」「～ていただく」も上下・親疎関係をわきまえた授受表現として提示されている。

表 9 『みんなの日本語初級 I・II』の依頼表現とその導入課

第 14 課	～てください
第 26 課	～ていただけませんか
第 41 課	くださる, いただく, ～てください, ～ていただく, ～てくださいませんか
第 48 課	～(さ)せていただけませんか

次に、謙譲語を見ると、表 8 には表 6 にある「申

し上げる」「頂戴する」「さしあげる」が導入されていない代わりに、表 6 にない「ぞんじております」「おめにかかります」が加わっている。多くの日本語学習が自己紹介の場で用いるのは「申す」であり、「申し上げる」ではないため、ニーズに見合った選択であろう。「頂戴する」は「いただく」で代用できるため問題はない。「さしあげる」は補助動詞としても使われるが、目上の方に面と向かってはあまり使用されないため、配慮があった可能性もある。

なお、日本語教育の他の初級教科書における敬語の取り扱いについては、渡邊 (1994) が「日本語初級教科書における敬語の扱いについての一考察」にて 4 種類の初級教科書を調査している。そこで、まとめられた項目から、注目すべき点を 3 つ挙げたい。

- (1) 敬語の説明において、‘polite’ という語が多く用いられている。日本語全体を見た場合 ‘polite’ と ‘plain’ の対立があるため、安易にその語を用いることは戒められるべき。
- (2) 適切に用いることが困難な「尊敬語」「謙讓語」が、自然な対話（会話）の中で用いられているのは好ましい。
- (3) “Situational Functional Japanese vol.3” (Tsukuba Language Group 1992, p.33-34) 例(a)にあるような、直接に上位の人（聞き手も含め）に関係がない場合の謙讓表現の使用上の制限についての説明は必要であろう。
 - (a) A: 図書館で本をお借りになりましたか。
B: はい、借りました。
 - (b) A: 木村先生に本をお借りになりましたか。
B: はい、お借りしました。

また、「まいります」「おります」などについては、他人との関わりの如何に関わらず丁寧のために用いられる例外であるとの説明も、上記制限につなげるために必要なことであろう。

(渡邊 1994, pp.21 - 22)

渡邊 (1994) の (1) で言及されたように、日本語教育においては、敬語の説明に ‘polite’ という語が多用されるが、多くの教科書が初級から ‘polite’ を「敬体」と、文体としての意味で用いていること

から、「です・ます」体が ‘polite’ と認識している学習者は多い。その学習者にとって、新たに学ぶ敬語の概念を ‘polite’ だけで説明することは困難である。それが故に、日本語教育では、(2) で述べられたように、自然な対話（会話）の中で「尊敬語」や「謙讓語」を提示していると考えられる。また、(3) の謙讓語においては、『みんなの日本語 II』でも謙讓語 II があまり扱われておらず、謙讓語 I も国語教育と比較すると語彙も少ない。また、上記(a)(b)のような、謙讓語 I における使用上の制限についても触れていない。

このように、日本語教育では、文法用語での説明が困難な分、敬語は対話（会話）で提示し、その場面と状況からその必要性や使用方法を理解できるように工夫している教材が多い。また、依頼表現に関しては、初級の段階から複雑な構造の表現が複数提示されている。そのバリエーションの豊かさは、学習者のニーズに即したものとしても、興味深いものがある。しかし、謙讓語においては、その種類や使用上の制限を取り上げるものは少ないため、教育現場で具体的な例を挙げ説明する必要がある。

本稿では、初中級のテキストの分析が中心になったが、大学で学ぶ留学生の日本語能力を考えると、今後中級・上級の方も調査を進めていく必要がある。

6. 日本人学生・留学生の使用実態

筆者は大学のコース内で、日本語力チェックを全体で 5 回実施したが、その中で 4 と 5 において、敬語を扱った。日本人学生と留学生の敬語に対するレディネスを調査し、足りない点を学習内容に取り上げるためである。4 は敬語の言語内の誤用で主に文法的知識を問うもの、5 は言語外の誤用で運用論的な面を問うものである。両テストとも、敬語表現が適切か否かを判断し、【 】に○か×を記入し、不適切なものは適切に直すという問題である。

6.1. 日本語力チェック 4

日本語力チェック 4 の問題と結果は、表 10 の通りである。問題は奥秋義信の『ふだん使いの正しい敬語』からより学生が日常生活で耳にしやすいと思われる敬語の表現で間違いやすいものを抽出し、特別な場面設定をせずとも 1 文で敬語表現の適切さが判断できるものを 10 問作成した。この「日本語力チェック 4」を受けた学生は、日本人 93 名、留学生 20 名、計 113 名であった。

最も誤答が多かったのは 6「とんでもございませ

ん」であった。日本人 83 名 (89%), 留学生 14 名 (70%) と計 97 名 (86%) が誤答であった。「とんでもない」は、「とんでもない」ではなく、「とんでもない」で、「あぶない」「きたない」などと同様、「～な」までが語幹の形容詞である。「とんでも」という語に「ない」という打消しの語が付いているのではないため、「ない」の部分で「ごさいません」「ありません」に取り替えることはできない。(奥秋 2009, p.108)

実際、「とんでもない」は「とんでもない」だと思っていた学生が大半であった。これは「とんでもないことにごさいます」、「とんでもない。…ごさいます。」などと修正すればよいのであるが、「とんでもない」における社会の共通概念が、変化してきていると考えられる。

また、次に誤答が多かったのは 10 の「お気をつけてください」で、日本人学生 83 名 (89%), 留学生 13 名 (65%) の計 96 名 (85%) が正しく直せなかった。「お」「ご」は、限られた例外を除き、動詞には付かない。「お気をつけてください」の場合は、「お気をつけ」という名詞形になったものに「ください」が接続したものであるが、「お気をつけて」と「て」が付くと、「気をつける」という動詞 (の活用形) に逆戻りするため誤りとなる。(奥秋 2009, p.48)

そして、3 番目に誤答が多かったのが 4 「お休みさせてください」で、日本人学生 70 名 (75%), 留学生 6 名 (30%) の計 76 名 (67%) の学生が適切に直せなかった。ここで、留学生の正解率に注目したい。日本人学生が 24.7% であったにもかかわらず、留学生は 70% と日本人学生よりはるかに高かったのである。前章の「5. 日本語教育における敬語」で述べたように、日本語教育では依頼表現が早くから多くのバリエーションで導入されていた。その成果がここに表れているものと推測できる。ちなみに、ここは「休ませてください」「休ませていただけますか」「お休みをいただけませんか」などに修正される。「お休みさせて」の表現は「お～する」の謙譲語の形式のため、自分の動作を表すことができると考えては誤りとなる。休む行為が直接相手に及ばないので謙譲表現では示せない。「お休み」の「お」を美化語の「お」として、「お休みをください」なら許容されるとしている。(奥秋 2009, p.134)

この類の問題は、文化庁の「敬語の指針」でも下記の通り述べられており、今回の例はア) に該当するので、適切な使用と考えられる。

「(お・ご)・・・(さ) せていただく」といった敬語の形式は、基本的には、自分側が行うことを、ア) 相手側又は第三者の許可を受けて行い、イ) そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる。したがって、ア), イ) の条件をどの程度満たすかによって、「発表させていただく」など、「・・・(さ) せていただく」を用いた表現には、適切な場合と、余り適切だとは言えない場合とがある。

(「敬語の指針」p.40)

他の誤用においては、8 「お見えになりました」のような「お見えになる」+「られる」の二重敬語や 4 と同様の 9・10 の補助動詞「～てください」を含む表現や 2 のように「～ていらっしゃい」を含む表現の誤用も多かった。いずれも、構造上複雑なために、日本人学生でも高校までに習った敬語の体系の理解だけでは、運用が難しかったことが伺える。

表 10 日本語力チェック 4

日本語力チェック 4 【問題と結果】

例	【×】部長が 宴会を 召し上がられた。 召し上がった	日本人学生	留学生
		誤答数 (正解率)	誤答数 (正解率)
1	【×】皆様、お元気で <u>ごさいますか</u> 。 いらっしゃいますか/お過ごしですか	32 (65.6%)	8 (60.0%)
2	【×】それについては、先生に <u>聞いていらっしゃい</u> 。 伺ってきなさい	37 (60.2%)	4 (80.0%)
3	【○】お客様に <u>お手紙を 差し上げました</u> 。	12 (87.1%)	3 (85.0%)
4	【×】申し訳ありませんが、来週、 <u>お休みさせていただきます</u> 。 休ませてください/休ませていただけますか(ませんか)	70 (24.7%)	6 (70.0%)
5	【○】先生に <u>お話しいただけますよう</u> 。 話していただけますよう/お話をさせていただきます	33 (64.5%)	10 (50.0%)
6	【×】 <u>とんでもございません</u> 。当方のミスでございます。 とんでもないことでございます/とんでもない…でございます	83 (10.8%)	14 (30.0%)
7	【○】当店のピザは、 <u>お持ち帰りになれます</u> 。 いただけます/をご用意できます/も承ります	54 (41.9%)	7 (65.0%)
8	【×】会長が <u>お見えになりました</u> 。 お見えになりました/見えました/いらっしゃいました	54 (41.9%)	6 (70.0%)
9	【×】課長、この書類を部長に <u>お見せしてください</u> 。 お見せください/お見せになってください/お見せ願います	47 (49.5%)	5 (75.0%)
10	【×】どうぞ <u>お気をつけてください</u> 。 お気をつけてください(ませ)/お気をつけになってください	83 (10.8%)	13 (35.0%)

6.2. 日本語力チェック 5

「日本語力チェック 5」は、場面や状況設定をし、

会話の中で適切に使用されているかどうかを見る問題である(表 11 参照)。「日本語力チェック 4」同様『ふだん使いの正しい敬語』にある表現に、筆者が日常生活の中で気になる表現も加え作成した。「日本語力チェック 5」を受けた学生は、日本人学生 88 名、留学生 19 名、計 107 名であった。

これらの問題で誤答が目立ったのは、57 名(53%)の誤答が出た問題 2 である。新しく発表された論文の分からない箇所について先生に聞く場面の質問の修正である。先生に「おわかりになりますか。」という質問を敬語表現であるため問題ないと判断した学生が多く、日本人学生 47 名(53%)、留学生 10 名(53%)と双方ともほぼ半数の学生が修正しなかった。「わかります」という動詞に「お〜になる」という尊敬語の表現を用いて高めているつもりであるが、先生に理解や能力を問うことに対して問題があるという意識が全くなかったのである。ただ、昨今の距離の縮まった教師と学生の関係を考えると、一概に誤りであるとは言いがたい。しかしながら、キャリアのある比較的年配の教師が言われた場合を考えると、面子を傷つけられる可能性もある。「敬語の指針」でも、このことに関して、「上位者に対して、その能力・意思・願望などを直接訪ねるということに問題がある」(p.47)と言及し、直接的な表現を避けることによって問い掛けることを勧めている。実際、同様の場面に遭遇した際には、「この冒頭の部分、私は何度読んでも分からないので、教えていただけませんか／教えていただけないでしょうか。」と依頼表現にすることが多いのではなかろうか。

この問題 2 に表れた面子の問題に関しては、Brown and Levinson(1987)の提唱する下記のネガティブ・ポライトネスに該当すると考えられる。

Brown and Levinson(1987)は、面子(face)との関係からポライトネスの概念を説明していて、人間には面子を傷つけられたくないとか、人に認められたいなどというさまざまな面子に関する欲求があり、面子を脅かす行為を互いに避けようとするという。それがポライトネスであり、人間行動に普遍的なものである。…そして、ネガティブ・フェース(negative face)とは、自分の領域に他者からむやみに踏み込まれたくないという面子のことで、これを保持し、傷つけないようにすることにより実現されるポライトネスをネガティブ・ポライトネスという。(『応用言語学事典』pp.209 - 212)

表 11 日本語力チェック 5

日本語力チェック 5 【問題と結果】

例	日本人学生 新答数 (正解率%)	留学生 新答数 (正解率%)
【×】山田社長様は、いらっしゃいますか。 山田社長		
1 【×】上司：いや～、今日は忙しかったね。もう帰っていいよ。 部下：はい、では失礼します。御苦労さまでした。 お疲れさまでした	17 (80.7%)	4 (78.9%)
2 【×】生徒：先生、この新しく発表された論文なんですが、この冒頭の部分、 おわかりになりますか、私は何度読んでもわからなくて…。 説明していただけますか / 教えていただきたいです	47 (46.6%)	10 (47.4%)
3 【×】<特急列車の車内> 乗客：あ、お茶くれる? 販売係：申し訳ありません。お茶は、お弁当と一緒にないとだめなんです…。 お買い求めになれません/ご購入いただけません/お売り できないんです/お茶と一緒にの購入(を)お願ひしております / お茶と一緒にご注文いただけません限り、差し上げかねます 乗客：え、そうなの?でも、弁当はいらないから、 お茶だけ売ってもらえないかな? 販売係：はあ…。では、よろしいですよ。 はい、かしこまりました / 承知しました 乗客：ありがとうございます!	15 (83.0%)	2 (89.5%)
4 【O】この犬、先生が飼ってらっしゃるんですね。 体も大きいし、毛並みもいいし、立派な犬ですね。	29 (67.0%)	7 (63.2%)
5 【×】<TV番組で予期せぬ再演> 司会：では、ゲストの方が昔お世話になったという先生に 登場していただきましょう! ご登場いただきましょう/お越しいただいています ゲスト：え～!本物ですか?もう10年以上会ってないですよ。 ご本人 お会いして(い)ません/お目にかかっていないです	30 (65.9%)	9 (52.6%)

相手の面子を脅かす行為を避けようとする行為は、人間行動に普遍的なものと考えられるが、このネガティブ・ポライトネスの概念が理解されず、敬語使用の場面的制約がなされなかったことになる。

そして、正解率こそ日本人学生 83%、留学生 89.5%と高かったが、多くの学生が正しく修正することができなかったものがあつた。3の「お茶は、お弁当と一緒にないとだめなんです・・・。」という販売係のせりふである。特急列車の車内販売係が、お弁当と一緒にないと販売できないお茶を、客から弁当はいらないが売ってくれと頼まれ、応答に困っている場面である。状況設定が若干複雑ではあるが、社会に出ると様々な事情でこのような理不尽な場面に遭遇する。ただ、自分が販売係の場合、乗客に対して失礼な態度は取れないため、断る表現も選ばなければならない。ここで興味深かったのは、多くの留学生が「それはいたしかねます」や「お茶と一緒にご注文いただけません限り、差し上げかねます」「お茶は渡しかねます」など、「～かねます」という表現

で修正していたことである。「～かねます」は、『中級日本語文法と教え方のポイント』によると、「気持ちとしてはそうしたいところだが、諸所の条件が十分に整わない(状況が許さない)ので、できないという意味を表す」(市川 2007, p156)とあるため、一見使用してよさそうである。ただ、実際には使われる動詞が、「理解する、判断する」などに限られている文型である。「差し上げかねます」や「渡しかねます」は聞き慣れないこともあってか、筆者自身はより批判的な印象を受ける。

一方、日本人学生はというと、「お買い求めになれません」「ご購入できません」や「お売りできないんです」「ご購入いただけません」と状況を説明して断わる表現が多く、一部「お茶と一緒に購入をお願いしております」と断わりの表現を避け、依頼表現を用いて直した者もいた。日本人学生で「～かねます」を使用して修正したものは1人もおらず、その使用場面の狭さと使いにくさを改めて考えさせられた。「～かねます」は、諸々の理由があれども、断りの表現には違いないため、例えば丁寧に言われたとしても、相手の面子を脅かす可能性がある。もちろん、言い方にもよるが、その相手がお客様となると、断りの表現を回避し別の表現を選択したほうがよいと判断する日本人が多いのではないだろうか。筆者自身も、「お客様、それはちょっと…」や「できないことになっておりますので…」など、文末部分が省略される言い指し表現で濁し、最後に誤ってしまう傾向が強い。

清(2012)は「日本語教師には見えない母語話者の日本語コミュニケーション」の中で、教科書フレームの呪縛として、教師の言語感覚が教材の刷り込みを受けていることと、一般の言語感覚からかけ離れていることについて論じている(清 2012, p.48)。日本語教育では、中級で断わりの表現のときに「～かねます」を教えるが、これもその刷り込みかもしれない。実際の使用場面や使われ方は今後もっと研究がなされるべきである。

このように、敬語の運用面のチェックテストから、学生は、全般的に、敬語の使い方の正誤の判断はできても、場面や状況に合った適切な表現に直すことが困難であることが判明した。日本人学生にとっても、談話レベルになると、場面や状況に合った適切な敬語表現というのはかなり難しくなるようである。

7. 敬語使用の意思

宇佐美(2001)は、最近の敬語の使い方に対する嘆

きの声に対して、過剰敬語や尊敬語と謙譲語の混同など、「言葉の形式」に焦点が当てられた「正誤」の議論は多いが、なぜそのような誤用が生まれてくるのかという誤用の背後にある「心理」を探る議論はあまりないと指摘している。そして、敬語使用が難しく、誤用が絶えない理由は、その使い分けの基準が、年齢や社会的地位の上下というような旧来の社会的価値観に規定された「人間関係の認知の仕方」に基づいており、そこに「個人の価値観」を反映させる余地がないことにであると主張している。昨今、社会の多様化、人間関係の複雑化、価値観の多様化が進む中、旧来の社会的価値観に規定された敬語の使い分けの「基準」や「原則」は現状に則さず、適用困難になってきていると見られる。実際、Usami(1999)の「話者間の力関係がいか言言語行動に影響を与えるか」の分析では、現代の日本人が実に巧みに敬語を回避しながら、旧来的な価値観に基づく上下関係を言語によってマークすることを避け、年齢や地位の違いにとらわれず、対等な言葉で話そうとしていることが伺えた。その結果を受け、宇佐美(2001)では、そこには未だ明確には意思化されていない「言語の民主化」への「意思」が見えるという見解を示している(宇佐美 2001, pp.26-27)。

筆者も個人によって敬語使用の「意思」が反映されることは重要であると考え。ただ、「民主化」という言葉を用いるならば、「旧来の社会的価値観」をもった日本人もその民の中に多く存在する。彼らの「意思」も多様な価値観の一つとして認識されるわけであるから、それも認め、同時に、彼らとの円滑な人間関係を望む若者にもその価値観に基づく言語使用の方法を伝える必要がある。その使用の実態と背景を知った上で、敬語は、個人の意味によって使用されるべきであろう。

8. まとめ

今回、国語教育と日本語教育双方の教科書の分析と日本語力チェックの結果から、学生の敬語におけるレディネスを考察し、いくつかの傾向を掴むことができた。

日本語教育の教科書においては、敬語全般において、敬語の使い分けの説明が少なく、謙譲語Ⅱに関する記述や謙譲語Ⅰにおける使用上の制限の記述もわずかであった。その説明が言語的に困難であることが理由であるが、対話の場面ごとに理解できるよう提示の仕方に工夫も見られた。その効果は、バリエーションが豊かに提示されていた依頼表現におい

て見られ、留学生の適切な使用が日本語力チェック4で確認された。しかし、他の表現はバリエーションが乏しく、断りの表現などにおいては、日本人の使用との隔たりが見られた。よって、相手の面子を脅かす可能性のある断りの表現などにおいては特に、実態に即した使用の紹介がされるべきである。

国語教育においては、現状の指導要領のままであれば、恐らく多くの学生が、中学校以来、体系的に敬語を学習していないため、実社会で氾濫する誤用などに気がつきにくい。よって、大学などの高等教育機関の教養教育、あるいは日本語関連の講義などで、今一度敬語の種類とその働きについての意識的な整理がなされるべきであろう。また、高校までの教科書が語・文単位の提示であるが故に、場や人間関係によって変化する談話の中で適切な表現をすることが困難となっている。談話レベルで適切な表現ができるよう、教育も改善されなければならない。

そして、日本語教育と国語教育に共通して考慮されるべきことが二つある。一つは、て形で接続された補助動詞を含む複雑な敬語表現を構造的に学ぶ必要があることである。相対的な変化に伴う尊敬語と謙譲語の使い分けを理解し、不用意な敬語の過剰表現に困惑せぬよう注意を促す必要がある。

二つ目は、敬語の使用は、談話レベルで、場や人間関係、そして本人の意思に応じて使い分けられることを学ぶということである。語や文レベルだけでは、場や人間関係が反映する心理面の背景を理解することはできない。ただ、談話の中で丁寧さというものを追求する際には、敬語の形式のみならず、談話の組み立てや話しぶり、そして、人間関係に見合った敬語表現の選択などでも調整する必要が出てくる。そういった意味では、敬語そのものだけで丁寧さを述べることはできない。敬語を用いても、日本語力チェック5で見たように、Brown and Levinson (1987)のネガティブ・フェースに値する、相手の面子を脅かすような場合も出てくるからである。よって、敬語の形式にのみ注意を払わず、場面や文脈に合わせた表現や言語行動というものを考え直す必要がある。今後は、敬語使用を回避する配慮などというものも含めた「ポライトネス」も研究なされなければならないであろう。

最後に、冒頭に述べたように、学生らのニーズは、実社会で使える敬語にある。それは、実社会に必要な敬語の知識を身につけ、さらにそれを適切に運用することを意味する。そこには、敬語を使用するか否か、使用するならどのレベルの敬語を誰にどの場

面でどのように使用するかといった判断を要する。つまり、敬語表現を用いることは、人間関係の認知の仕方の意思表示、「自己表現」を実現させることに値する。この「自己表現」の実現のためには、敬語を構造面と運用面から改めて捉えなおし、これまでは十分に考慮されていなかった「ポライトネスの理論」をコミュニケーションの授業に反映する必要があるであろう。それをどうカリキュラムにデザインしていくかが今後の課題である。

注

1) 外国語教育の世界で学習者が既に身につけている目標言語の能力のことを「学習者のレディネス」という。本来は目標言語の既習能力だけをさすものではなく、外国語習得のレディネスや学習条件のレディネスなども含まれ、外国語学習に影響を与えるすべての要素をレディネスと呼ぶ(田中 1988, p69)との見解もあるが、本稿では目標言語の能力、つまり既習の能力という意味で用いる。

2) 一語において、二重に同じ種類の敬語を使ったものをいう。例)「読む」を「お読みなる」と尊敬語にした上に、更に尊敬語の「…れる」を加えたもの。(「敬語の指針」2007, p.30)

3) ここで言うマニュアルとは、職場での言語使用、特に接客の場面での言語使用について具体的な言語表現などを示すもので、新入社員や臨時職員の指導に用いられるものを指す。敬語について議論される中で、この「マニュアル敬語」がしばしば批判的に取り上げられる。(「敬語の指針」2007, p.9)

4) 井上史雄氏の「敬語五分類は混乱の元 謙譲語の変化は途中段階」『朝日新聞』(H18.12.1)との異議や、荻野貞樹の「敬語指針「美化語」新設に疑義あり」『朝日新聞』(H18.12.2)など、様々な意見が多数新聞で掲載され、注目された(郡 2008)。

5) 待遇表現とは、話し手が相手との間の社会的・心理的距離に応じた心理的態度を表す言語手段である。(『応用言語学事典』p.215)

参考文献

- 市川保子 (2007) 『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク。
 宇佐美まゆみ (2001) 「21世紀の社会と日本語—ポライトネスのゆくえを中心に—」『言語』1月号

- 30 - 1, 20 - 28 大修館書店.
- 奥秋義信 (2009) 『ふだん使いの正しい敬語』 講談社.
- 教育出版 (2016) 『伝え合う中学国語 2』.
- 小池生夫・井出祥子・河野守夫・鈴木博・田中春美・田辺洋二・水谷修 (2003) 『応用言語学事典』 研究社.
- 郡千寿子 (2008) 「文化審議会の答申と敬語教育」『弘前大学教育学部紀要』 99, 1-7.
- 三省堂 (2016) 『現代の国語 2』.
- 三省堂 (2016) 『現代の国語 3』.
- 三省堂 (2016) 『国語総合現代文編』.
- 三省堂 (2016) 『精選国語総合 (改訂版)』.
- 三省堂 (2016) 『明解国語総合』.
- 鈴木裕子 (2008) 「大学生の日本語能力の現状・各論(敬語・書き順・語彙・表現) - 豊橋技術科学大学生の場合」『雲雀野』 30, 137-154.
- スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語 初級 I・II 本冊』.
- 清ルミ (2012) 「日本語教師には見えない母語話者の日本語コミュニケーション」『日本語教育のためのコミュニケーション研究』 野田尚史(編)くろしお出版.
- 田中望 (1988) 『日本語教育の方法ーコース・デザインの実際ー』 大修館書店.
- 東京書籍 (2016) 『新編新しい国語 2』.
- 東京書籍 (2016) 『新編新しい国語 3』.
- 東京書籍 (2016) 『新編国語総合』.
- 東京書籍 (2016) 『国語総合現代文編』.
- 東京書籍 (2016) 『精進国語総合』.
- 光村図書 (2016) 『国語五 銀河』.
- 向山ひろみ (2012) 「大学生を対象にした敬語指導の内容と方法及びその有効性に関する研究」『人間科学研究』 25 - 1, 139.
- 村松由起子・石川智嘉子・鈴木裕子 (2012) 「「ビジネス日本語」としての敬語学習の意義 - 工学系留学生の場合 - 」『雲雀野』 34, 27 - 33.
- 渡邊裕子 (1994) 「日本語初級教科書における敬語の扱いについての一考察」『学校教育学研究 第 6 巻』 兵庫教育大学 学校教育研究センター, 15-23.
- Brown, p. and Levinson, S. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press.
- Usami, M. (1999). *Discourse politeness in Japanese conversation: Some implications for a universal theory of politeness*. Doctoral dissertation. Havard University.
- Tsukuba Language Group (1991) *Situational Functional Japanese vol.1: Notes*, 凡人社.
- Tsukuba Language Group (1992) *Situational Functional Japanese vol.2・3: Notes*, 凡人社.
- 文化審議会 (2007) 「敬語の指針 (答申)」 (http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingi/kai/kokugo/hokoku/pdf/keigo_tosin.pdf) (2016 年 9 月 26 日)
- 文化庁 (2010) 「敬語のおもしろ相談室社会人のための敬語の使い方指南」(<http://keigo.bunka.go.jp/>) (2016 年 9 月 26 日)
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編(平成 20 年 3 月告示 平成 27 年 3 月一部改正)」 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/youryou/_icsFiles/afieldfile/2015/03/26/1356250_1.pdf) (2016 年 9 月 26 日)
- 文部科学省「中学校学習指導要領(平成 20 年 3 月)」 (<http://www.fuku-c.ed.jp/center/contents/tyuushidouyouryou.pdf>) (2016 年 9 月 26 日)
- 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成 21 年 3 月)」 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/youryou/kou/kou.pdf) (2016 年 9 月 26 日)

SUMMARY

In the course of the “Japanese Language communication A” in academic curriculum, students are given the assignment to choose a theme relating to Japanese Language and write a report at the end of the course. The most popular theme during the first semester 2016 was “Keigo”. That theme was further subdivided into some subthemes. 20 students chose “Keigo for business” which was the most, and 6 students chose “Redundant Keigo” in the second. Both Japanese students and international students hope to learn “Keigo” used widely in Japanese society and master it properly. However, there is a flood of improper “Keigo” in Japanese society and they actually feel confused about it. Under these situations, the present writer considers what are

the needs of “Keigo” in the academic curriculum. They should learn “Keigo” with a focus on pragmatics as well as structure results through the analysis of the readiness . Practical practice should be provided for students after understanding of the theory of politeness and the aspects of the situational and psychological effects. That is, future challenges.

KEYWORDS:Keigo,Japanese Language Teaching, National Language Teaching, readiness, needs

†Kayo HAYANO* : Needs of “Keigo” in academic curriculum - A study on the readiness analysis of Japanese students and international students -

*Faculty of Humanities, MIE university 1577
Kurimamachiyachou Tsuchi, Mie, 514-8507
Japan